

羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。-ルカ2章-

神に信頼して

今日のミサを通して、わたしたちは新年と「神の母聖マリア」の祭日を祝います。マリアは単に「イエスの母」ではなく「神の母聖マリア」と呼ばれています。神をその名前さえも、深く尊敬してやまないユダヤ人とイスラム教徒の双方にとって、神が人間の母親を持つという考えは、全く受け入れられないばかりか、冒とく的です。全てのものの創造主が生き物から生まれるということ自体が矛盾しているのです。

しかしながら、私たちにとって、マリアはイエスを人の子として産んだと信じられています。しかし、その子は祝福された三位一体の二番目の人格です。イエスは人であり神でもあります。2つの性質ですが、ひとつの人格です。西暦431年、エフェソス公会議は、マリアが本当に神の母であると宣言しました。イエスの母としてのマリアは人の子の母であり、人の子は神であります。これについては、これ以上理解や説明ができることと期待されていないことはあきらかです。神の特性は人間の理解を超えています。しかし、マリアのように信仰は明確な説明を必要としない場合もあります。彼女はすべてのことを心に留め、神の計画を信頼し神にゆだねました。福音書は「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていました。」と述べています。イエスはかつて、「神の言葉を聞いてそれを守る人は、むしろ幸いです」と言われました。言い換えれば、マリアの偉大さは、イエスの母というだけでなく、神の言葉を聞いて従ったことです。私たちもまたマリアから学ぶことができるでしょうか。たとえ何が起きているのか理解に苦しむことがあっても、神を信頼し神にゆだねることで。

2020年を迎えるにあたり、覚えておくべきことが2つあります。1つは、昨年の大小を問わず、すべての出来事を振り返り、「ありがとう」と言うことです。すべてに感謝します。私たちが今までどおり生きていて、呼吸していて、今日もここにいることができることを神に感謝します。2020年はコロナウイルスの大流行で厳しい年でした。そのせいで多くの人々が困難に巻き込まれました。けれども、それは私たちがどれほど壊れやすいかを理解するのに役立ちました。私たちが希望を見いだすのは、ただ神においてだけで、生活はまだ決して安定した段階ではありません。

第二に、新年を楽しみにして、来たるべきすべての出来事に期待し降伏をして新年を楽しみにして待ちましよう。そして「はい」と言いましよう。神は私たちの生活の中にいつも私たちと共におられると信じて、大きな笑顔と心の平安をもたらすものに「はい」と言いましよう。しかし、私たちは来るものを受け身で待つだけでなく、自分自身を変え、今年の新年を昨年よりも良くするために最善を尽くせるようにやってみましよう。心を寛大にします。そして私たちの心はいっそう思いやり深く気持ちは前向きになりますように。マリアが

そうであったように、私たちも神のみ手にあるすべてのものを信頼するのです。

最後に、私たちはマリアを賛美します。なぜなら、彼女は理解していなかったにもかかわらず、「お言葉どおり、この身に成りますように。」と言える深い信仰を持っていたからです。私たちひとり一人がこのマリアの例にならって、神の呼びかけに「お言葉どおり、この身に成りますように。」と応えていくことができますように。アーメン 2021年1月1日 クラレチアン宣教会助祭 パウロ・ニュー・イ

